事業区分　地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

事業名　防災キャンプ・防災フェスタ

Ⅰ　防災キャンプ「リアル避難キャンプ」

［主　催］　国立阿蘇青少年交流の家

［期　日］　令和７年９月20日（土）～２１日（日）【１泊２日】

［活動場所］　国立阿蘇青少年交流の家（武道場・野外調理棟）

［参 加 者］　４名（高校生３名、高等専門学校生１名）

［スタッフ］　職員４名　法人ボランティア７名

1　趣　旨

参加者が防災について自分事として捉えられるようにするため、避難所を想定したシミュレーションを行い、体験を通して学び「生き抜く力」を意識できるプログラムを提供する。

2　目　標

（１）事業全体を通して参加者の満足度９割以上を目指す。

（２）参加者が防災について自分事として考えたと回答する割合９割以上を目指す。

3　事業展開

（１）プログラム　（??:??は事前に時刻を定めず、参加者が計画・実施）

９月２０日（土）	９月２１日（日）
９：３０　受付	６：３０　起床・身支度
１０：００　開会式	？？：？？　ミッション③　朝食炊き出し
１１：００　防災ゲーム「クロスロード」	９：３０　振り返り
１２：００　昼食・休憩	１１：００　防災フェスタ参加
１３：００　ミッション①　避難所設営	昼食・ブース体験
？？：？？　ミッション②　避難者対応、ドラム缶風呂	１５：００　閉会式
２２：３０　消灯	１６：００　解散

（２）活動の様子



【防災ゲーム「クロスロード」】



【避難所設営】



【ドラム缶風呂体験】

4　評価、成果、課題

（１）参加者の声（参加者と参加ボランティア）

質　問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体の満足度	回答数（人）	11	0	0	0
	割合（%）	100	0	0	0
防災について自分事として考えることができたか。	回答数（人）	11	0	0	0
	割合（%）	100	0	0	0

・　日々の生活では意識しないことを体験できた。本当に必要なものは何か、考えることができた。

・　知らない人と避難生活をするのは大変だった。地域の関係をつくることが大事だと思った。

（２）成果

○　シナリオを用意しないシミュレーションにより参加者の思考や関わりを促進することができた。非日常の環境下で「生き抜くこと」について考える機会を提供することができた。

（３）課題

○　参加人数が想定よりも大幅に下回った。参加対象や広報について見直す必要がある。

Ⅱ　防災フェスタ「楽しく学ぶ防災フェスタ」

［ **主　催** ］ 国立阿蘇青少年交流の家

［ **企画・運営**］ 熊本「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会

［ **期　日** ］ 令和７年９月２１日（日）

［活動場所］ 国立阿蘇青少年交流の家（かんぽラジオ体操広場・体育館・武道場・第１駐車場）

［参 加 者］ 458 名（幼児 104 名、小学生 117 名、中学生 10 名、高校生 6 名、大人 221 名）

［担当職員］ 16 名

［ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等］ 法人ボランティア９名　熊本県立阿蘇中央高校生徒 11 名

［後　　援］ 熊本県教育委員会、阿蘇市教育委員会、産山村教育委員会、小国町教育委員会
高森町教育委員会、西原村教育委員会、南阿蘇村教育委員会、南小国町教育委員会
熊本朝日放送、熊本日日新聞

［協力団体］ 熊本県知事公室危機管理防災課、阿蘇市防災情報課、阿蘇広域行政事務組合消防本部,
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター、国土交通省九州地方整備局阿蘇砂防事務所、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所、気象庁熊本地方気象台、RVSP 熊本、防衛省自衛隊熊本地方協力本部阿蘇地域事務所、阿蘇火山博物館、熊本県キャンプ協会、熊本大学くまもと水循環・減災教育研究センター、WakuWakuOFFICE あそ Be 隊、（株）シェルパ、ヤマガラビレッジ（熊本市立金峰山自然の家)、南阿蘇ファームキャンプ、熊本県キッチンカー協会、熊本県レクリエーション協会、熊本県明るい職場づくり運動連絡会、熊本地震震災ミュージアム KIOKU、自然を愛する会ジュニア・アウトドア・クラブ、天草青年の家、菊池少年自然の家、豊野少年自然の家、あしきた青少年の家、阿蘇ジオパーク推進協議会事務局、阿蘇 MIRAI 広場、阿蘇市地域婦人会、熊本県立阿蘇中央高校、東海大学、大分東明高校吹奏楽部、ひとづくり JAPAN ネットワーク、有限会社鶴長水産（順不同）

1　趣　旨

体験型ブースを多数出展し、「楽しく」防災・減災について学ぶ機会を提供し、参加者の防災意識を高め、日常生活に活かすきっかけづくりとする。地域への広報や各団体との連携を強化し、施設の認知向上と「体験の風をおこそう」運動の推進の場とする。

2　目　標

（１）事業全体を通して参加者の満足度９割以上を目指す。

（２）２０団体の地域各種団体や企業、青少年教育施設等と連携。

3　事業展開



【浸水ドア体験】



【シーツを用いた降下体験】



【雲発生実験】

4　評価、成果、課題

（１）評価

・　参加者の感想として「楽しかった！」「防災について楽しく学べた！」といった声があった。

・　４２団体を連携・協力し本事業を実施することができた。

（２）成果（〇）と課題（●）

〇　参加者数が 458 名と目標の 400 名を上回った。

〇　協力団体の増加により業務負担が増大したため、協力先や実施方法の見直しが必要である。